

赤ちゃんよみきかせボランティア スキルアップ講座

11月26日(土)、赤ちゃんよみきかせスキルアップ講座を行いました。今回は、赤ちゃんよみきかせの基本的な流れと選書について教えていただきました。

講師は、八女市の子育て支援課家庭児童相談室に所属され、子育て支援に携わっていらっしゃる高倉優子さん。長峰小学校読書ボランティア「オリオン」のメンバーの一員として、学校や八女市立図書館でのよみきかせを行っていらっしゃいます。



家庭児童相談員としての目線で、赤ちゃんとのコミュニケーションの大切さ、絵本の力を借りた子育てについてお話されました。

◀ 『ももももも』

なんだかよくわからないけれど、計算された魅力がある、赤ちゃんを惹きつける絵本。

選書のポイント

- 低めの年齢の子に合わせた絵本を準備する
- 音（擬音）や繰り返しがある絵本を選ぶ
- 単純な絵を選び、十分に「間」をとって絵をじっくり見せる

最初は評価の高い基本的な絵本を選び、力がついたら自分で選書してみるとよいとのことでした。また、読む際は優しい声で、声色を変えず、あまり抑揚をつけずに読んであげた方がよいそうです。



選書の参考になる本がたくさんあります！

★『この本読んで！』出版文化産業振興財団

★『赤ちゃんが喜ぶ読み聞かせ』
徳永満理（2004）フォーラム・A

その他、講座でお話されたことを少しだけご紹介します。



赤ちゃんの五感

赤ちゃんは五感のなかで聴覚だけは大人と同じ。言葉を食べているので、言葉を発しないからといって話しかけないのはいけません。どんな時でも話しかけてあげてください。

愛着について

子どもにとって、愛着はとても大事。例えば、自分が泣いたことに対して反応を得られること、反応があることで家庭が安心できる場所になり、愛着が芽生える。愛着があることで、前向きに生きる、失敗しても立ち直る、挑戦する気持ち＝「生きる力」を持つ子どもが育ちます。



受講生一人一人がボランティアをするきっかけを話す時間もありました。受講生からは「子育てにおける絵本の重要性を話されていたので非常に為になった」「読み聞かせの狙いがよくわかった。受講生の体験も聞かせてもらっていい勉強でした」という声がありました。

よみきかせは大人の人にも聞いてほしいということで、講座の最後はおすすめの絵本『くまさぶろう』のよみきかせでした。



講座で紹介された絵本です

- ❶ 『いないいないばあ』 松谷みよ子（1967）童心社
- ❷ 『いいおかお』 松谷みよ子（1967）童心社
- ❸ 『しろくまちゃんのほっとけーき』 わかやまけん（1972）こぐま社
- ❹ 『てんてんてん』 わかやましすこ（1998）福音館書店
- ❺ 『がたんごとんがたんごとん』 安西水丸（1987）福音館書店
- ❻ 『じゃあじゃあびりびり』 まついのりこ（1983）偕成社
- ❼ 『くっついた』 三浦太郎（2005）こぐま社
- ❽ 『おひさまあはは』 前川かずお（1989）こぐま社
- ❾ 『ぴょーん』 まつおかたつひで（2000）ポプラ社
- ❿ 『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ（1993）福音館書店
- ⓫ 『おつきさまこんばんは』 林明子（1986）福音館書店
- ⓬ 『もこもこもこ』 谷川俊太郎（1977）文研出版
- ⓭ 『ちびゴリラのちびちび』 ルース・ボーンスタイン（1978）ほるぷ出版
- ⓮ 『くだもの』 平山和子（1981）福音館書店

